

淡景に満たされた

心安らぐ小空間



私たちが「和」と言われて思いついたものは障子である。障子は一般的な透明なガラス窓とは異なり、外側の景色や光をぼんやりと写し出す。その景は、私たちを現実世界から遠ざける。それはつまり、何かに囚われることなく、思う存分に心を休めることができるということであるだろう。

私たちはこのような障子の特長に着目し、現実世界からの逸脱と、和の趣を十分に堪能することのできる空間を表現するに至った。

ファサードの丸窓は部分的に障子をはめ込んでおり、向こう側の景が何であるかはっきりとは分からない。しかしなぜだか惹かれてしまう。自然界の景を部分的に切り取ってみることで、その光や色彩の変化が、人間の深層心理を揺さぶるのだ。

この空間では、自然光の強さによって光や影に変化する、不完全な「和」の景の流れを味わうことができる。